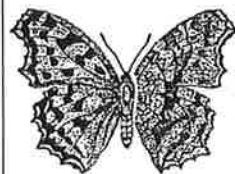


財団だより

多摩川

1991. 9 第51号



キタテハ (タテハチョウ科)
 開張60mm。翅は茶褐色に黒の斑点。夏型は樹液に、秋型は花に訪れることが多い。食草カナムグラ。



環境整備された野川(調布市91年6月撮)

■ 多摩川現風景 ■

(7) 河川環境整備事業

河川環境を良くしようとする動きは、全国的な規模で行なわれている。その考え方は、景観の改善、親水レクリエーションの促進、生きものの生息環境づくり、河川に係わる歴史・文化財の保全など多様である。

多摩川でも、すでにいくつかの事業が行なわれているが、写真は野川で行なわれている事例である。東京都による「いこいの水辺」事業の一環で行なわれているものである。すでに河川改修(暫定工事)が終り、川の中央にわずかな水が流れ、草に被われてきてそれなりに自然の復元が期待されていた。そこに突如として草地在自然石の護岸に替わり、ある部分ではコンクリート魚巣ブロックなどが置かれている一角が出現した。草の川の風景を見慣れた近所の人に感想を求めたら、「お金をかけて整備して下さるのは有難いが、なぜ

自然石の護岸なのか良く理解できないのです。」という返事があった。この種の課題は多摩川の各所で問題になりつつある。整備する側の発想と使う側の感想のズレであろう。この問題も「川とは何か？」の原点に立ち戻らなければ糸口は見い出せない。

● 関連する財団の助成研究 <学術研究>

- ① 多摩川における河川空間の整備に関する基礎的研究
 篠原 修 1978 No.9
- ② 多摩川をめぐる自然環境の保全・回復および利用計画に関する基礎的研究
 立花 直美 1984 No.73
- ③ 多摩川水系のアメニティ構造解析に関する研究
 杉尾 伸太郎 1981 No.34

多摩川散歩

●多摩川河口部

多摩川の自然を守る会 柴田 隆行

子どもたちに多摩川で水びたしになるほど遊ばせたいと思う。僕たちがかつてそうしたように。そう思っている多摩川のあれこれの場所を思い浮かべると、真っ先に思い浮かぶのが河口近くの右岸(川崎市側)だ。東京湾の水量のおかげか、水がきれいで、しかも干潟は子どもにも安全だ。生きものも多く、子どもたちは存分楽しめる。5分おきに飛び立つ間近の飛行機の眺めも豪快だ。

京浜急行大師線の産業道路駅で降りたら、左手の歩道橋を斜めに渡って10メートルほど先の路地を左に入る。車の少ない道をまっすぐ進んで5分くらいで多摩川の堤防に出る。河川敷に下りてアシ原に沿って下流方向に進むと、アシ原の脇にマツバボタンのような葉の植物が足元一面に広がっている。よく見るとピンクの小さな花をつけている。ウシオツメクサという植物で、塩分を含む土地に生える。ほかに、ウシググ、コウボウムギ、アイアシなどが見られるが、10月下旬にはウラギクという薄紫色の瀟洒な野菊が一面に咲く。

地面を見たついでに辺りを見渡すと、あちこちに3センチくらいの穴があいているのがわかる。アシハラガニの巣穴だ。掘ろうとしても、アシの根が縦横に張り巡らされていて小さなスコップでは掘れない。カニの知恵勝ちだ。しばらく行くと、干潟の一角に出る。砂の上に黒い粒が無数に散らばっている。一見土かと思えるが、よく見るとなんと小さな巻貝で、カワザンショウガイという。干潟では、足に毛がはえているクロベンケイガニや小さなコメツキガニとチゴガニが多い。

堤防の一角に20メートルほどのコンクリート護岸があるところに着くと、プロミナを構えたバードウォッチャーが大勢並んでいる。野鳥観察用かと思える護岸から水辺を見渡すと、カモやシギ、チドリの仲間が多種多数四季折々観察できる。カモの多い冬と、渡りの季節の5～6月と10月頃が一番おもしろい。潮見表を見て行くと良いだろう。

ここから先しばらくは干潟が小さく、堤内地はいすゞ自動車の工場がつづくので、ひたすら河口をめざして歩く。アシ原がまた広がってきたら、河川敷にハマヒルガオやハマダイコンなどの植物が見られる(6月)。黄色のカヂイチゴの実を食べながら(6月下旬)進むとふたたび干潟に出る。干潟では無数のカニが手をふりあげて潮引きをしている。僕らが近づくとそそくさと砂の中にもぐってしまう。これは、体は大きいがはさみの小さなヤマトオサガニで、ほかにはさみにいつも泥がついているケフサイソガニもいる。多摩水路に出たら終点、建設省の標柱第1号つまり建設省の決めた河口だ。見ればこの先も埋立で河口はどんどん先に伸び、湾岸道路の工事も見える。

さて、冬はここまで来るとトイレが気にかかる。先ほどの野鳥観察用(?)護岸まで急いで引き返し、住宅地を百メートルほど入ると清潔なトイレと水道のある公園に着く。ここからまっすぐ南に向かえば、小島新田駅に出られる。

案内図



私と多摩川

●丹波川満水



寛保大洪水の被害の模様を伝える日記
(谷合氏見聞録)

青梅古文書の会々員 中村 昭

連日、雲仙普賢岳の様子が、報道されている。眠りから覚めて火を噴いた山は、多くの犠牲者を出した。「早く鎮まれ」と願うばかりである。

この一連の報道の中で、ある新聞の記事に目が止った。それは200年前の噴火の様子を記録した「島原大変、肥後迷惑」という古文書を使って、今後を、予知予報しようとするものであった。無論、この古文書だけで判断する訳けではないであろうが、火山、地震学の分野では、この200年という隔りは決してカビの生えた古いものではなく、防災対策には欠かせない資料になるという。普段、昔を懐しむためだけの古記録も、この様に使われて、初めて価値あるものとして光を放ってくれる。

改めて古記録の大切さを知った。

さて、私の住む町にも一つの古い記録が残されている。武州二俣尾村（現東京都青梅市）の名主谷合七兵衛が、元禄11年(1698)に筆を起し、寛延元年(1748)まで47年間という長い間書き続けた日記（谷合氏見聞録）である。

その内容は、政治、経済、天変地異、気象、村の暮らしなど公私にわたり綴られたもので、近世史料として高く評価されている。そして、この日記の中には様々な災害の記録がみえる。その中でも

特に多摩川に関する記述が多い。当時、幕府に差し出した村明細帳によれば「男ハ筏木丸太ヲ伐出シ、日用ヲ取り、筏ヲ組、乗り下ゲ、賃銭ヲ取り・・・渡世ヲ送り来り申候」とあり、多摩川と村との暮らしには深い係りがあった。その為、実にこまめに多摩川の様子を天候と共に観察している。「河水乾、丹波川（多摩川）渴水、野戸呂ノ堰不通、筏困窮ス」（享保元）「大雨降、川々満水、当年初テ大雨満水」（享保二）「丹波川満水、四ツ時ヨリ大雨風吹ク・・・村々諸作樹木風損難計」（同）等、その記述は随所にみられる。

そんな中から関東地方に甚大な被害を与えた、寛保の大洪水の時の様子を見てみると、

寛保2年、この年は6月初めから雨続きで「頃日、日寄悪毎日毎夜大雨降、満水スル、14日満水、18日満水、27日満水」と雨々と日記はうんざりした様子で、多摩川は溢れかえっていた。7月に入っても「初旬雨天、盆中天気吉、17日雨降ル、同27日ヨリ雨降立、翌28日雨、同夜雨、29日大雨降終日終夜大雨」盆中のつかの間の天気も又雨々であった。そして「8月1日大雨、洪水ニテ同夜村々所々大荒、前代未聞ノ荒、此ニ記ス」とその夜の模様を紙数を費やして、寺の新築した庫裏が壊れたこと、自分の家では座敷に土砂が流れ込み、家財を押し流し土砂が床上3尺も積ったこと、他の家々でも押し流され押し潰され、畑は河原に変わってしまったこと。又近在の村々の被害の様子、関東各地の村々に迄話は及び、その惨状を興奮した筆で書き綴っている。

この様に、この日記は実に良く事細かに記録され、過去の多摩川を知る貴重な史料にもなっている。これに、他の流域各地に散在する同様な記録を集めて、体系的に分類整理すれば立派な資料となり、今後の防災対策に役立つような気がするのだが。

9月は防災の月である。そして又、昭和49年の多摩川水害を想起させる月でもある。



洪水で流された低水護岸
(中央高速道路橋上左岸 8月28日撮)

多摩川紀行

⑩ 拝島橋～京王線鉄橋(多摩市関戸)約10.5km 山道省三

関東地域で8月の20日前後に断続的に集中豪雨があった。この時多摩地域にも大雨が降って多摩川は大増水となった。

今回のスタート地点である拝島橋下の川原に降りてみると、高水敷が洗われ草が倒れている。砂利もすっかりきれいになって清涼しい感じさえする。拝島橋は拡幅工事の最中で、そこに働く人に話しを聞くと普段より3m近くも水位が増したのではないと思われる。そして今日(8月27日)の時点でも、あの特異な三紀層の河床はほとんど見えないくらい白濁した水が流れている。普段より1mぐらいいは増えているだろうか?このカヌー行も10回目になるが、これ程増水したのははじめての経験である。

前回、5月に羽村から下った時カヌーの底をすって下った事を思えば、むしろこのくらいの水位が下り易い。ただし堰のチェックや、下りながら何回も下見をしなければならない。

午前12時の川原の表面温度36℃、水温19℃。フル装備で出発する。カヌーは広い水面をすべるように下っていく。日野用水取水堰の上は湖のような広い水面になっている。

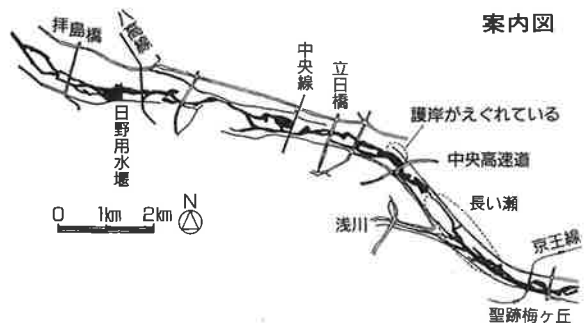
中央線鉄橋と日野橋の間には、新しい橋、立日橋が架けられている。このあたりは増水の中かすかな下水臭が漂よう。処理場からの排水なのか、残堀川の影響なのか、この臭いには多摩川ではよく出会うことがある。川の臭いと言えば、昨日(8月27日)、長良川をカヌーで下っていた時、これぞ本当の川臭さとも言うべき、水ゴケの臭いを充分味わってきた。美濃市内であったからちょうど長良川中流部になる。ある水の会のメンバーとアユ釣りの人達でいっばいの川を縫うようにして下ったのだが、手ですくって飲むとかすかな香りとまるやかで甘い味がする。アユのメッカの面目躍

如である。長良川とはいわないが、あの処理水独得の臭いは何とかならないものだろうか。時々この臭いでガックリくることがある。

この時期の長良川でカヌー下りをするのは、なんだか犯罪行為をしているみたいで、何度カヌーをかついで迂回したことだろう。迂回しない時は頭の下げっぱなしだった。アユ釣りの人は、真剣そのものでまるで仕事している見たいで少々気味の悪い思いもした。幸い、今日の多摩川は増水のせいか釣り人が少ない。釣り人はいても水面が広がっているから、何の心配もなく下ることができた。水の少ない時だとコイ釣りの竿が林立し、糸が川面を交差しているはずである。

日野橋の下、左岸側には残堀川の旧河道や府中用水の取入口、国立市からの都市排水路などがあるが、中央高速道の橋下から上流に向けて、コンクリートブロックによる護岸が大きくえぐられている。長さ100mにもなるうか、高水敷を補強した部分がかさねり持っていていかれている。水面から眺めると、まるで洪水がいたずらしたような感じである。

今回、約10.5kmを2時間半程で下った。途中で休憩したから人の早足程度の速度になる。洪水によるフラッシュ効果であろうゴミも全く目につかず、川岸の草は倒れて荒涼としてはいるが、本当に川らしい感じがした。昨年下った北上川でもそうだったが、水が滔滔と流れるさまには畏敬の念さえ覚える。年間でもそんなに多くはないが、増水時の多摩川を眺めるのも本来の川の姿を知る機会かも知れない。間違ってもカヌーやボートで下るようなことはしないでほしい。私の場合はもう20年近く多摩川の調査や研究に携さわっているからある程度の構造を知っているつもりである。それでも何回もカヌーを降りて、川岸を歩いてルートを決めたり、川底の様子が分らない所は迂回しているのである。カヌーばやりの昨今だが、事故で亡くなる方は跡を絶たない。どうか、もしなさる方は、指導員のもとで充分訓練を積んでからにしたい。



多摩川流域の自然環境に関する催物一覧

| 日 時 | 場 所 | 行 事 名 | 主催者名・連絡先・(電話) |
|--------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 9月7日(土) 15:00～20:00 | 京王多摩川～和泉多摩川 (京王相模原線京王多摩川駅改札口集合) | 自然観察会 一なく虫の声を聞く一 | 多摩川の自然を守る会 (0426-36-0902 柴田隆行) |
| 10月20日(日) 9:30～15:00 | 是政橋～日野橋 (西武多摩川線是政駅改札口集合) | 自然観察会 | 同 上 |
| 11月17日(日) 9:30～15:00 | 羽村堰～陸橋 (JR青梅線羽村駅改札口集合) | 自然観察会 | 同 上 |
| 6月1日(土) ～ 9月30日(日) | せたがやトラスト協会 | せたがやウォッチング 一見つけて下さい、世田谷らしさ 図画・写真・作文コンクール一 | (財)せたがやトラスト協会 (03-3708-7311 担当・小出) |
| 11月23日(土) 時間未定 | 多摩川河川敷(兵庫島周辺) | ラブリバーいも煮会 | 多摩川を愛する会 (03-3464-6791 泉) |

※参加方法等詳細は直接主催者にお問い合わせ下さい。

(到着順)

選考委員紹介

財団では去る5月理事会において選考委員の改選を行い下記9名が選任されましたのでご紹介いたします。

| | | | |
|------|-----------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------|
| 氏 名 | 沼 田 真 | 氏 名 | 増 井 光 子 |
| 現 職 | (財)日本自然保護協会理事長 千葉大学名誉教授 | 現 職 | 東京都 多摩動物公園 園長 |
| 専 門 | 生態学 | 専 門 | 獣医学、動物行動学 |
| 主な著書 | 生態学方法論(古今書院) 自然保護と生態学(共立出版) 生態学辞典(築地書館) 環境教育論(東海大学出版会) | 主な著書 | 日本の動物(小学館) 動物のいのち(築地書館) |
| 氏 名 | 半 谷 高 久 | 氏 名 | 石 毛 直 道 |
| 現 職 | 東京都立大学 理学部 名誉教授 | 現 職 | 国立民族学博物館 教授 |
| 専 門 | 地球化学 | 専 門 | 文化人類学 |
| 主な著書 | 水質調査法(丸善) 社会地球化学(紀伊国屋書店) 水質汚濁研究法(丸善) | 主な著書 | 住居空間の人類学的考察(鹿島出版会) 環境と文化ー人類学的考察ー(日本放送出版協会) 食事の文明論(中央公論社) |
| 氏 名 | 西 川 喬 | 氏 名 | 中 村 良 夫 |
| 現 職 | むつ小川原開発株式会社 常勤顧問 | 現 職 | 東京工業大学 社会工学科 教授 |
| 専 門 | 河川工学 | 専 門 | 景観工学 |
| 主な著書 | 治水長期計画の歴史(水利科学研究所) 水資源開発(山海堂) 河川管理の理論と実際(山海堂) | 主な著書 | 土木空間の造形(技報堂) 景観学入門(中央公論社) |
| 氏 名 | 宮 川 公 男 | 氏 名 | 涌 井 史 郎 |
| 現 職 | 一橋大学 商学部 教授 | 現 職 | 株式会社 石勝エクステリア 代表取締役 |
| 専 門 | 経済学、経営学 | 専 門 | 造園学 |
| 主な著書 | 意思決定の経済学Ⅰ・Ⅱ(丸善) オペレーション・リサーチ(春秋社) 意思決定論(丸善) 基本統計学(有斐閣) | 主な著書 | 都市の庭(ビック社) |
| 氏 名 | | 氏 名 | 新 井 喜 美 夫 |
| 現 職 | | 現 職 | (財)とうきゅう環境浄化財団 専務理事 |
| 専 門 | | 専 門 | 経済学 |
| 主な著書 | | 主な著書 | 市場調査(日本事務能率協会) マーケティング入門(東洋経済) 経営戦略の革新(東洋経済) 現代を読む本(東洋経済) |

第6回多摩川週間に協賛して

今年も7月18日から24日まで多摩川週間が開催された。「多摩川シンポジウム」「第一回全国カーフェスティバル」「多摩川野外美術展'91」「多摩川 自然のアルバム展」「夏休み多摩川教室」等々流域住民に多摩川に親しんでもらうためのいろいろなイベント企画が多摩川流域協議会、多摩川シンポジウム実行委員会（府中市）の手によって実施された。

「多摩川シンポジウム」は新設間もない、府中の森 芸術劇場「ふるさとホール」にて行われた。テーマを「川模様・新時代—くらしの中の多摩川—」とし、開会挨拶を吉野府中市長が行い、特別講演を俳優 赤木春恵さんが親しみを込めた語り口で聴衆を魅了した。昭和40年から26年間、府中市民として、暮らしてきたが、仕事に行く車窓からみる多摩川がほとんどで、直接、多摩川に触れることが少なかったことを嘆いておられる様子が印象的であった。このことは、多分、多くの人に共通することであると思われる。

トークショーに移り、宮崎 緑さんの司会で、近藤 徹氏（建設省 河川局長）、赤木 春恵さん 梅宮 辰夫氏（俳優）が自由闊達に、多摩川、川についての思いを語った。宮崎さんを除いて、3人とも満州で子供の時代を過ごしており、日本の川と大陸の川との比較が話題となり面白い展開となった。予想された事ではあるが、やはり自然に蛇行した、河原や、よどみのある、昔の川を求め声が多く、真直なコンクリート三面張りに対す

る否定があった。行政として、「治水」と「親水」の調和を図る難しさがうかがわれた。

多摩川の「鮭」の放流について、『「鮭」と「酒」は銚子まで』との言い伝えのとうり、鮭の南限は利根川水系であり、学者の意見では、多摩川の鮭は生態系的に自然ではないとのことであった。

多摩川シンポジウムの良さは、川の専門家と、素人と言っては失礼であるが一般市民の方々との交流、相互理解の場であると思われる。

その意味では、会場にあふれる市民の楽しげなふれあい、そこから初めて、多摩川との接する機会が芽生えれば結構なことと思われる。

そのためには、「武蔵国府太鼓」などのアトラクションも楽しい出演であったと思われる。

第1回 「多摩川流域の水と緑」

第2回 「多摩川らしさについて」

第3回 「21世紀の多摩川をデザインする」

第4回 「遊び空間としての多摩川

—新多摩川事情—

第5回 「多摩川の今・昔

—その生活と歴史—

今回 「古今東西、水掛け論」

シンポジウムのテーマを並べてみると、多摩川はまことに、いろいろな切り口を持った「川」であると思う。まさに、川の流れるようにである。これからの「多摩川週間」が楽しみである。

常務理事・事務局長

芳村 重徳

- 発行日 平成3年9月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141

